平成29年11月定例会　経済委員会（付託）
平成29年12月５日（火）
〔委員会の概要　商工労働観光部関係〕

岩佐委員長
休憩前に引き続き，委員会を開きます。（10時36分）
これより，商工労働観光部関係の審査を行います。
商工労働観光部関係の付託議案については，さきの委員会において，説明を聴取したところでありますが，この際，理事者側から報告事項があれば，これを受けることにいたします。

【報告事項】
○　「平成30年度に向けた商工労働観光部の施策の基本方針」について（資料①）
○　とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルについて（資料②）
○　「＃徳島あるでないで」キャンペーンの実施について（資料③）

朝日商工労働観光部長
３点，御報告させていただきます。
お手元の資料１を御覧ください。
平成30年度に向けた商工労働観光部の施策の基本方針についてであります。
商工労働観光部といたしましては，人口減少の進行による影響が深刻化する中，商工，労働，観光の３分野において，地域経済の持続的な成長・発展へ結びつけるため，一歩先の未来を見据え，ピンチをビッグチャンスに変えていく施策展開を推進してまいりたいと考えております。
まず，活力ある成長と発展による「経済・好循環」加速でございます。
１，小規模企業の持続的発展を支援では，産学金官連携により構築した事業承継ネットワークを活用し，事業承継の総合的なサポート等を行ってまいります。
２，県内企業の成長力を強化では，ＡＩ・ロボット技術や高機能素材などの活用や，ＬＥＤや４Ｋといった，本県の強みである産業の育成強化を図ってまいります。
３，成長分野の産業集積を加速では，大都市圏での誘致プロモーション等により，成長分野である，サテライトオフィスや情報通信関連産業等を，徳島に呼び込む施策を加速してまいります。
４，安定した企業活動の基盤を強化では，中小企業者への金融支援の拡充や商工団体等による相談体制の充実等により，県内企業の基盤強化に向けた施策を展開してまいります。
次に，働き方改革と多様な人材が活躍できる社会の実現でございます。
１，多様な人材の参画を促進では，若者，女性，障がい者の方々など，多様な人材が活躍することができるよう支援体制の充実を図ってまいります。
２，専門性が高い人材を育成では，徳島版マイスター制度の推進により，未来のものづくりを支える人材の育成を行ってまいります。

３，都市部からの人材環流を加速では，プロフェッショナル人材戦略拠点の活用等により，徳島に人を呼び込む施策を加速してまいります。

４，安心して働ける環境を整備では，テレワークの普及促進をはじめ，仕事と育児を両立できる環境づくりに取り組んでまいります。

次に，未来へつなぐ観光誘客戦略を展開でございます。

１，誘客コンテンツを充実強化では，本県が誇る阿波おどりや20回目を迎えるマチ★アソビ等の誘客コンテンツを更に磨き上げ，魅力向上につなげてまいります。

２，国内外からの誘客を促進では，官民一体となったオール徳島体制での誘客営業を強力に展開するとともに，阿波おどり空港の国際化を契機としたインバウンド対策を強化してまいります。

３，受入環境の整備を促進では，通訳人材の拡充やスキルアップを図るとともに，Ｗｉ－Ｆｉや観光周遊アプリの導入，二次交通対策に取り組んでまいります。

４，徳島の持つ魅力を発信では，ウェイクボード世界選手権大会をはじめとする，４大国際スポーツ大会を見据え，本県の魅力を国内外に強力に発信してまいります。

今後とも，変化する社会経済情勢や国の動向等を注視し，時機を逸することなく，効果的な経済雇用・観光振興対策を実施することにより，地方創生を実感できる，力強い徳島経済を実現してまいります。

次に，お手元の資料２を御覧ください。

とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルについてでございます。

１ページを御覧ください。

県議会９月定例会の閉会以降，実行委員会において開催概要を決定し，現在，関係団体と最終の調整を行っているところであります。

まず，開催概要の（１）シンボルアート作品については，万代倉庫エリアや県庁エリア等，四つのエリアにおいて，２ページに掲載の４作品を，平成30年２月９日から10日間，展示することとしております。

（２）主なイベントの予定でございますが，観光誘客や，にぎわい創出につながるよう，オープニング式典，トークイベントをはじめ，ワークショップとして，竹とＬＥＤを組み合わせた灯籠，ＬＥＤを使った光のオブジェ，ＬＥＤはがきの制作など，子供をはじめ気軽なアートづくり体験を用意しています。

また，ＬＥＤに関し，最新の技術動向や新分野への応用可能性について幅広く情報提供を行う，総合フォーラムの開催，とくしま産業振興機構が実施した女性クリエイター養成講座における作品の展示を行うプロジェクションマッピング，神山町に残るふすまからくりのふすま絵を先端技術と組み合わせた，変幻自在デジタルふすまからくりなどを予定しております。

詳細は３ページ以降に記載しております。

今後とも，関係団体と十分連携を図りながら，しっかりと取り組んでまいります。

続いて，お手元の資料３を御覧ください。

「＃徳島あるでないで」キャンペーンの実施についてでございます。

県外からの誘客を促進し，宿泊者数の増加を図るため，県と宿泊業界，旅行会社，交通機関等が一体となり，プロジェクトチームにおいて検討を進めた結果，県と宿泊業界を中

心に，ＷＥＢサイトなどによる誘客キャンペーンを本年12月から来年の３月末まで，順次，実施いたします。

主な内容としましては，２の（１）受入体制，おもてなしの充実といたしまして，楽天，じゃらん，るるぶトラベルといったオンライン旅行会社のＷＥＢサイトに，阿波おどり体験プランやランチ券付きプランといった，本県が誇る魅力あるコンテンツである，体験や食を組み込んだ新たな宿泊プランを設定するほか，宿泊プラン利用者を対象とした，夏の阿波おどり期間のペア宿泊券等が抽選で当たるプレゼント企画を実施いたします。

また，（２）魅力発信の強化といたしまして，ＷＥＢサイトに宿泊プランへの導線となる徳島県特集ページを設置するほか，観光客や県民の皆様を対象としましたＳＮＳキャンペーンを実施することで，徳島の魅力ある観光地や風景，体験，食などを全国に発信してまいります。

このキャンペーンを通じ，全国から数多くの皆様に魅力あふれる徳島を訪れていただけるようしっかりと取り組んでまいります。

報告については，以上でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

岩佐委員長

以上で，報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは質疑をどうぞ。

岡田委員

今日頂いたこの資料１，平成30年度に向けた施策の基本方針ですけど，まずこれで質問させてもらいます。

１点目の小規模企業の持続的発展を支援というところで，ほんとに今，小規模というか零細企業というか，家族企業といいますか，家族経営している所で，起業後の承継をしていくのが非常に難しくなっている事業体があるので，その承継ネットワークによる総合的サポートっていうのが，実際具体的に，どのように支援をしていこうと考えられているんですか。

山川企業支援課長

ただいま平成30年度に向けた商工労働観光部施策の基本方針におきまして，小規模企業の持続的発展を支援する事業承継ネットワークによる総合的サポートについて御質問を頂いたところでございます。

今おっしゃいましたように，小規模事業者が円滑な事業承継をしていくのは，本県経済の発展にとって非常に不可欠でありまして，最重要の課題であるというように認識しております。

そしてこの７月に，県内の経済団体，商工団体，それから金融団体が集まりまして，徳島県事業承継ネットワークというのを構築いたしました。そちらには，税理士会とか，弁護士会とかも入っておりまして，各顧客さんの事業承継の掘り起こしから，課題という

か，そういう案件をネットワークに持ち帰って，またそのメンバーで，どこの機関でそれを解決していくっていう，掘り起こしから課題解決までできるような組織を作ったところでございます。

来年度はこのネットワークの活動を強化いたしまして，円滑な事業承継が行われていくようサポートしていきたいという記述になっております。

岡田委員

そういうってことは，基本的に，事業所さん側のアプローチによる承継サポートになるんですか。それともその組織体が，それぞれ所属している団体の中でアンケートを採って，そういう悩みありませんかっていうような話で，ネットワークのほうがアプローチしていくんですか。

山川企業支援課長

こちらから仕掛けていくか，待ちかという話であったと思います。

そこが，今回のネットワーク構築のポイントになっております。

平成27年度から，徳島商工会議所のほうで事業引継ぎセンターというのができました。こちらはどちらかというと待ちでありまして，相談件数もそれなりにきていたんですけど，この事業引継ぎセンターの取組においても課題として，積極的に事業引継ぎへの取組をしたがらないという経営者さんもたくさんいらっしゃいます。それで，やはり「気付き」として，事業所に早めに仕掛けといたほうが良いということがあって，積極的に掘り起こしていこうというのが，このネットワークの大きな趣旨でございます。

今，委員がおっしゃったように，この構成メンバーがそれぞれ銀行だったら銀行の顧客，それから商工団体だったら加入事業所に，対象の経営者が別に事業承継したいと言っていなくても，こちらから事業承継診断っていうのがありますから，ちょっと聞いてくれませんか，アンケートしてくれませんかという形で，この７月から始めているという状況でございます。

岡田委員

今の話を聞いて，実はそのあたりが一番難しいところであって，経営者さんは健康であれば100歳でも1,000歳でも，事業主としてやっていきたいと思われてるし，それが継続できる体力があるときは大丈夫なんですが，いざ病気になられたり，10年先のことはっていうふうになられますと，今絶対皆さん不安を抱えながらやられているところもあります。是非そのあたりは，細かい説明を。こういうふうになったら，こういうふうな支援がありますよとか，こういうふうにしませんかっていう，事例も含めながら，いろんなケースが多分あるし，その企業体さんによって，100社あれば100通りあると思います。そのあたりは細かくサポートしていただけるような体制をしていただいて，継続していくというか，その方の家族に経営者がいないっていうんであれば，その違う企業体から違う人が入ってくるとか，後のその事業継承をどうしていくかっていうのが，できるようにしていただきたいと思います。

そうじゃないと，町にある商店なり，その小規模事業者さんっていうのが，ほんとに消

えていってて，街中を見てますと，えっ，どしてって言ったら，お父さんが病気になってなとかいうお話もたくさん聞くし，特に飲食店の方とかだったら，ほんとに何軒も，もう高齢になってしんどいけんっていうような話をお伺いすることもあります。できましたら徳島の魅力の一つと思いますので，その小規模事業者の皆さんの元気なうちに事業承継できるように積極的にアプローチして相談にのって，残していける方向で，是非取り組んでいただきたいと思いますので，お願いしたいと思います。これも，基本方針で上げてくださってるので，本格的に取り組んでいく覚悟をしていただいてるとは思うので，是非お願いしたいと思います。

それともう一つ，多様な人材の参画を促進っていうところで，私，本会議でも質問させてもらって今日もそれを言おうと思って新聞を切り抜いてきたんですけど，働くがん患者の支援ということで，ここには病気治療とかがん患者の方の就労支援というのが入ってないんですけども，やはりがんの患者さんが徳島新聞さんによりますと国立がん研究センターで2017年には過去最大の101万4,000人になると予測しているということが書かれています。そして20歳から64歳の働く世代の患者も増えており，がんと診断された方はなかなかほなけんどやっぱり就労に厳しい現実があるし，企業さんは，その方たちに対しての手当や，制度っていうのが進んでいないのも現実だというふうに書かれていますけれど，そこの中にあって働ける環境作りというのを要望させていただきました。そしたら病気に負けないように頑張るための仕事っていうのも大事だと思うし，またそれと生活する経済的な保証も必要やと思うので，そのあたりをもう少し考えて，配慮していただきたいと思うのですが，いかがでしょうか。

梶本労働雇用戦略課長

ただいま岡田委員から，病気の治療と両立しながら働き続けることができる環境作りが非常に重要でないかという御意見を頂いております。それで私どもでは，若年者，それから男性，女性，あるいは高齢者，障がいの有無に関わらず，それから病気の方もおられます多様な人材の参画が重要です。先ほど言われたようにがん患者が増加するというこの状況の中で，そういった病気の治療と仕事を両立していくということは非常に重要なことだと考えております。そういったことから労働局と一緒に組織を立ち上げて，医療機関等とも連携しながら，そういったサポートを行う準備を進めているところでございますので，来年度に向けまして，体制を十分作っていきたいというふうに考えているところでございます。

岡田委員

分かりました。項目の中にも，病気の治療の方も含まれるっていう解釈でよろしいですね。やっぱり社会の一員として働いて，それも無理がない程度というのが先に付きますけれども，やっぱり働いていただくことによって，生きがいを見つけて頑張っていくことにもつながっていくと思いますので，是非そのあたりに配慮した施策もお願いしたいと思います。

それと，そのまた横ですけれども，誘客コンテンツで，マチ★アソビの更なる魅力向上っていう話なんですけども，毎回やっていて，マチ★アソビには５万人なり６万人なり

の方がおいでるっていう話なんですけれども，いつも，情報発信がうまくできないから，徳島になかなか誘客ができないんじゃないかっていう議論をさせてもらっています。徳島人のコラムで載ってた話なんですけど，マチ★アソビとマラソンは情報が欲しい人が探してきてくれる分には十分情報は届いてますよっていう，これは大学生の方の話なんです。じゃあほかに，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにしても，行きたいなと思っている人のターゲットをどのように探していって，どのように情報発信していくかっていうことが，誘客戦略に向けて一番大事なことでないかという話で思うんですけど，その場合ビッグデータとか，いわゆるいろんなネットの情報の活用を今現在考えられているのか，その状況はいかがなんですか。

黄田観光政策課長
　岡田委員から，本当に情報が欲しい人に届いているかという御質問かと思います。正にビッグデータといいますか，観光のマーケティングというのは非常に重要なことと思っておるところでございます。マーケティング調査につきましては，これまでも実施をしてきたところでございますが，その結果を踏まえまして本県への誘客に，どのターゲットを絞っていくか，今検討しているところでございます。その中で，効果的なイベントを打つでありますとか，誘客のいろいろな受入態勢の整備という形で，その調査等を基にして，今後検討してまいりたいと思っております。

岡田委員
　今後検討ではなく，もう既に検討しといてくれんかったら。
　じゃあこれは平成30年度に向けては，どうされようとしてるんですか。

黄田観光政策課長
　今回，御報告させていただきましたが，一つは例えば，徳島の魅力を発信していくという形で，官民一体となった取組という形で，「徳島あるでないでキャンペーン」を実施することとしております。それも，観光のマーケティングのデータ等を踏まえまして，特に首都圏からどのターゲットを呼んでくるのがいいのかというあたりの分を踏まえまして，今回のキャンペーンを実施することとしておりますので，引き続きデータ等を分析しまして，更に誘客につなげるような施策というのを，今後も検討してまいりたいと考えております。

岡田委員
　分かったような分からないような答弁なんですけど，いずれにしても，徳島県に徳島県の何を魅力と思って，何を目的に来てくれるかという方策を，首都圏への情報発信によって入れ込むというか，誘客するということを考えていくっていうことですか。

黄田観光政策課長
　これまで，マーケティング調査という形で来訪者でありますとか，実際にどういう行動をされているかを調査をしてきたところでございます。それを踏まえ，特に今年度につき

ましては，誘客営業担当を設けまして，営業活動を積極的に展開していくという取組をしているところでございます。その中で，今回，官民一体となって，「徳島あるでないでキャンペーン」という形で，特にやはり宿泊を伴う方にお越しいただきたいということで，首都圏をターゲットに絞りまして，これまでも営業活動を行っておりますが，より官民一体となってウェブ等も活用したキャンペーンをこれから展開していくところでございます。

岡田委員

ありがとうございます。当然宿泊を伴っていただいて，いっぱいお土産を買っていただいて，徳島県に遊びに来ていただけるお客さんを誘客していただきたいんです。今いろいろ仕掛けをしてくれているというお話なんで，その宿泊に関して言わせていただきますと，やはり泊まりたいと思えるホテルとか，旅館とか，民泊とかっていう宿泊先の魅力発信というのも必要だと思うのですね。だから幾ら徳島県で観光資源があって夜になったから，ほな泊まろうかと言っても道後温泉があるけん愛媛まで走ろうかとか，ほな明日，日曜市があるけん高知まで走ろうかっていうので，今ものすごくお客さんを逃がしているのが徳島県の現実です。徳島県に泊まりたいと思ってもらえる宿泊施設に関しては，どのように理解して，分析されていますか。

黄田観光政策課長

それぞれの観光地等につきましては，いわゆる観光のいろんな資源等を情報発信していくとともに，やはり委員からお話がありましたように，泊まってみたいという宿泊施設も非常に重要になろうかと思っておるところでございます。それで，今回報告させていただきましたキャンペーンにおきましては，それぞれの施設で体験や食を組み込んだ新たな宿泊プラン等を設定していただきまして，それを一体的に発信していくというふうな形で，施設ごとの魅力というのも情報発信していく形でございます。やはり県外から徳島県に来て，ここを見て，ここに泊まってみたいと思っていただけるような形で。引き続き宿泊施設の方とも連携しながら情報発信をしてまいりたいと思っているところでございます。

岡田委員

先ほど，楽天さんとかじゃらんさんとかっていうお話もあったんですけど，そこら辺になると宿泊施設の宣伝とか映像とか，特にテレビで良く流れてくる淡路島さんの温泉施設であったり，道後温泉さんも何百年になりますよねっていうようなＰＲであったり，その中にあって徳島県に泊まる理由があれば，１万円以上を払ってでも徳島県に泊まりたい。さっき言ったように遅くなったから泊まるんじゃなくて，徳島県に泊まるために来て周遊をするっていうほうに発想を切り替えていかないと。ここに来て泊まってどこに行くかって調べたんよというお客さんが多分個人旅行になると非常に多いと思うんですね。私も自分で行くときにどこかに泊まるときには，予算にも影響されますけれども，泊まる場所とそのあたりでじゃ何が周遊できるかっていう計画を立てるので，いわゆるそれが普通のやり方だと思うのですね。それだったら徳島県でどこに泊まりますかって言ったときに，宿泊施設さんの情報発信なり魅力発信なり，こんなおいしい物が食べられますよとかこんな

ことできますよ，そこに泊まったらどんな体験ができますよっていうところをもっとこう押し出していくなりのＰＲをしていただきたい。泊まって初めてこんなことができるじゃなくて，逆にこれがしたいからこの宿泊施設に泊まりたいよという部分を，もう少し前に出していっていただきたい。だから徳島県に泊まるんやっていうところをもう少し主張していかないと，宿泊者数というのが本当に上がらないと思います。実際いろんな宿泊施設さんもいろいろ頑張られているのも事実なんですけど，じゃそこで泊まって何ができる，何が体験できるっていうところの，もう少しその魅力度を上げてもらわないと道後温泉に逃げられます。それはもう道後温泉さんと高知に逃げられるというのは，つまり道路事情も良くなって後１時間走ったら行けますよみたいな，交通インフラみたいなのもあるんですけど，いやいやそうじゃないよ徳島県に泊まりたいんよと言ってもらえる情報発信の仕方ってあると思うんですけど，いかがですか。

黄田観光政策課長

委員からお話がございましたようにやはり徳島県を選んでいただいて，それで来ていただくという情報発信というのは非常に重要かと思っております。それで繰り返しになりますが，それぞれの宿泊施設におきましてもこのキャンペーンの中で，体験でありますとかグルメ等を組み込んだ新たな宿泊プランというのを，それぞれのところで工夫して設定をしていただいているところでございます。

県といたしましては，その情報発信のところでオンラインの旅行会社の方に，そこに徳島県の特集ページを設置をさせてもらいまして，そこでそれぞれの各施設が工夫して企画したプランを掲載していただいて，それでまとめて徳島の魅力の情報発信をこれから展開するというふうな形にしているところでございます。

やはり，それぞれ選んでいただけるような魅力を磨いて，なおかつそれを効果的に発信していくということは重要と考えておりますので，引き続きこの取組を進めてまいりたいと思っております。

岡田委員

今魅力を磨いてというお話がありましたけれども，魅力を磨いて輝いて見えるように。それでないと観光に光る物を見に来るので，光ってなかったら見に来てくれないという現実もありますので，このあたりは是非取り組んでもらいたいと思います。

それともう一つ，その中にはＷｉ－Ｆｉの設備であったり，ホテルやバス，汽車の中の居心地環境とか，それと徳島に来てもらうには，やはり橋を渡ってきてもらうという分の費用をかけてきてもらう部分もありますので，その分をお金払ってでも行きたいよと言ってもらえる環境作りも非常に大事と思います。ここにもＷｉ－Ｆｉ，他言語表記，決済システム導入の促進っていう，決済システムも入れてくれるような話が載っているので，このあたりについてはいつ頃を目途に頑張ろうとされているのですか。

戸川国際課長

外国人観光向けということでお話をさせてもらいますと，やはり本県を訪れた外国人観光客が快適に徳島に滞在できるような環境を整えておくことがまず大切だということで

Ｗｉ－Ｆｉだとか，多言語表記の整備につきましては，助成制度を設けまして県内事業者等に支援をしているところでございます。それから最近，決済アプリの導入が大分進んでおりますので，そういったところも今後広く県内事業者に周知等を図っていくようなことを事業検討しているところでございます。

岡田委員
　はい。いつ頃にっていうのは，来年度助成されるというのは分かったんだけど，その目標年度ってありますか。来年度中にできるのですか。

戸川国際課長
　時期につきましては，予算を伴うことになりますので，現在財政当局等と協議をしているところですので，もうしばらくお待ちいただけたらと思います。

岡田委員
　いい話が聞けるように期待して，来年度に注視していきたいと思います。もう一つ，観光周遊アプリというのがあるんですけど，これは観光周遊の情報発信のアプリなんですか。

黄田観光政策課長
　やはり，本県に来ていただきまして，それで本県の中で周遊していただいてできるだけ長く滞在していただくというのが重要と考えているところでございます。現在は県内等の飲食店とか宿泊施設，観光施設等の御協力を頂きまして，おどる宝島！パスポートという形で，そのパスポートを提示して周遊していただくというふうなものを用意しているところでございます。
　今後はその課題等を改善し，より情報発信を強化して周遊性を高めていくというような形で，引き続きアプリの導入に向けての検討をしてまいりたいと考えておるところでございます。

岡田委員
　パスポートのアプリということなんですけど，ただこのパスポートに参加されているそれぞれの施設は点在しています。どちらかというと周遊していただくためには，自家用車で来た方には当然まわりやすい環境にはあるんですけど，資料にも二次交通対策の強化っていうのがありますけど，外国人の方は特に車に乗ってというならば，レンタカーの御案内とか，その手続等々の情報発信も必要だと思います。周遊の情報だけじゃなくて，その周遊するためにはどうしたらいいかっていう，交通手段の案内がなければ周遊できないのが徳島県の今の現実であって，そうなると，こういう公共交通を使って移動してくださいということも，併せて情報発信をしていかないとなかなか皆さんまわりづらいと思います。そのあたりはこのアプリができたんだったら，ここにはこうやって移動できるよ，徒歩だったら何分だよみたいな感じのアプリまでできるんですか。

黄田観光政策課長
　周遊アプリの関係でございますが，現在内容等を検討しているところでございまして，委員からお話のありました点を踏まえて，今後予算等も関係するところもございますので，検討してまいりたいと考えております。

岡田委員
　今までにもいっぱいアプリを作ってますよね，観光に関して作っていませんか。去年度にも作りますといったアプリはなかったですか，見たことないんやけど。今それってどうなっているのか，あるかないかだけ教えてほしいんですけど。

黄田観光政策課長
　今の県の観光情報につきましては，観光情報サイトであります阿波ナビの中で，いろんなイベントでありますとか観光の情報を，一体的に発信しているところでございます。

岡田委員
　阿波ナビはアプリではないのですか。サイトですか。

黄田観光政策課長
　阿波ナビにつきましてはホームページといいますかサイトという形で作っておるところでございます。

岡田委員
　余りにいっぱい作ってくれても分からないんですよ。選べないんです。だから窓口を一つにしてそこでリンクを張るというか，いろんなサイトは見た方に選んでもらったらいいので，ほんまにハッキリ言うて徳島県のホームページに徳島の観光って入れてもらって，そこで全部アクセスできるよう一元化するなり，検索できるなりっていう，少なくとも利用者の方が欲しい情報が得られる環境作りが一番大事です。たくさんアプリを作ってくれても，そのアプリをどうＰＲするんだということになると，アプリってものすごい数あるんですよね。だからその中で徳島県の観光アプリをどうアクセスしていって，どう皆さんにダウンロードしてもらって，どう活用してもらうかっていうところを考えんかったら，いっぱい作ってくれて，できたら利便性が上がりますよっていうお話やけど，当然上がるとは思うんやけど，探すのが得意な方と得意じゃない方と世代によっていろいろあるのでターゲットを絞って，そのあたりの戦略を練ってもらわないと，なかなかそれが活用できません。
　今回少なくとも観光周遊アプリということで，それぞれの施設の情報発信なり宿泊施設等々いろんなものの情報発信をできるような，その地域の観光情報を発信してくれるものを作ってくれるんかなと思うんです。けれども，それに併せて交通アクセス，交通インフラの部分も是非載せていただきたい。自分がそれを見て徳島県がまわれるんやということ，それぞれ皆さんが自分だったらこれで行けるって思えるようなものを是非作ってもらいたいと思います。それは車に乗れる人も乗れない人も高齢者の方もって，ある程度対象

を絞ってもらって，それに大体よくあるのは，１泊２日自分で自家用車でまわるコースとか，１泊２日交通機関を使ってまわるコースとか，１泊２日借り上げタクシーでまわる人とか，それぞれの観光に来たいと思った方たちの形態に応じた情報発信ができるようしてください。そのあたりをきめ細かくしてもらわないと，行きたいなと思った方がこれ何で行けるのかを探すときに，そこのサイトから探せる，そこのアプリからもその情報発信ができるっていうところがないと，徳島は面倒くさい，ほな違うとこにしようかって言われんように，徳島を選んでもらうための情報発信なので，そこの部分は是非きちんとしていただきたいと思いますのでお願いしたいと思います。

それで，本会議のときにもいろいろコメントでいっぱい大きなことを言ったんですけど，やっぱり最初言ったような２時間かかる移動の中の工夫を仕掛けていかないと。そしてあれは外国人誘客のために言ったんですけど，結局カラオケバスにしたってそのカラオケが大好きな外国人の方がいらっしゃるんで，その方たちに向けてこうする。俳句っていうのは，英語の俳句も一時はやってたんで言ったんです。何で汽車かっていうと，各駅停車に乗ってもらって各駅で俳句を詠んでもらったら楽しいなって思ったので，そういう意味で俳句列車っていうのをコメントで言わさせてもらったんです。やっぱりその長い時間をどう楽しんで，徳島に行った記念として何が残るんだって言ったら，徳島で鳴門海峡を歌ったよとか，徳島で各駅停車の汽車の中で俳句を詠んだからこれだけできたよっていう，それは旅の宝物として，それぞれの国の人が持って帰ってもらえるツールになると思ったからです。そこのあたりまで深くいろんなことを想定してもらって，自分でこうしたら楽しいっていう思いも入れていただかないと，来て楽しい，来て面白い，食べておいしいっていうのを感じてもらって徳島へ行って良かったなって思えるようにしていただきたいと思うんですけど，どうですか。

黄田観光政策課長

今委員からお話がありましたように，移動中の工夫でありますとか，やはり来ていただいて，楽しんでいただくために，欲しい情報というのを，いかに情報発信していけるかが非常に重要と思っております。特に最近ではスマホ，タブレット等が普及いたしまして，そこで皆さん情報を入手されるというケースが多いかと思います。その中で欲しい情報が得られる仕組みを構築できるような形で，今後検討してまいりたいと考えております。

岡田委員

一生懸命皆さんが情報発信をしてくださってるし，いろいろ検討もしてくださってるのも重々分かってるんですけども，その意味合いでもやはり，まだまだ他県に比べて情報の仕方，情報の届き方が弱いっていうのは現実ですので，そのあたりは工夫されて，そしてその情報を発信するだけじゃなくて受け取りやすい，検索しやすい，そしてヒットしやすいっていう仕掛けも重要と思います。徳島へ行って良かったっていうと，それこそまたそのお話が口コミで広がっていくっていうのが，一番強いファンの作り方だと思うので，ＳＮＳの情報発信もいいんですけど，それよりは，行っとったんやけどな，面白かったんよって言ってもらえる，その口で伝えてもらえる，徳島の良さっていうのを感じて持ち帰ってもらえる徳島県の観光づくりに取り組んでいただきたいと要望して終わります。

岡本委員

岡田委員さんの質問と少し重なりますけど，昨日も実は小松島商工会議所の議員との意見交換会に，長池委員と中山議員と行ってきました。端的に言うとやっぱり事業承継っていうのと持続化補助金というのが一番関心が深いというかね，とても大きかったです。持続化補助金は大丈夫ですけど，後１週間ぐらいかな，税制改正大綱っていうのが発表されます。今年のメインっていうのは杉本委員の森林環境税ね。それと事業承継の優遇税制というのが，この１週間ぐらいが山なんですよね。事業承継の優遇税制というのは今は猶予になっとんですよね。５年ぐらいしたらもう要らんようにしてくれたらという要望もしているんですが，今現在で分かってる範囲でその動きって，どんなような状況かを分かれば簡単で結構です。

山川企業支援課長

ただいま，事業承継に係る税制の改正に向けての動きということで御質問を頂いたところでございます。まず現在の事業承継の税制がどうなっているかを簡単に御説明させていただくと，経営者の交代で，後継者に贈与，相続される株式について，贈与税だったら全額，相続税だったら８割が猶予されるというシステムになっています。その認定要件としては当然中小企業者であることとか，それから先代から，過半数を有する株主を取って自分が筆頭株主になる。そしてその継続要件としては５年間，雇用８割を守っていかなければいけないと。その後もずっと後継者が筆頭株主にならなくなった時点でその猶予が解かれるとか，そういった条件で動いているところです。

それでは期間の話もあれば雇用の話もあるので，ちょっと厳し過ぎるのではないかという声がありまして，国のほうでも，例えば現行の５年間で平均８割の雇用者を維持するのを緩和できないだろうか，それから株主の範囲も現行８割というのがあった，それも拡大できないだろうかとか。それから第三者が相続する場合にも対象拡大できないだろうかと検討がなされているということは聞いております。私どもも事業承継を推進する立場でございますので，今後の状況を注視してまいりたいと考えております。

岡本委員

徳島県の政策提言で，そのことをちゃんと言っていただいてるんだけど，岡田委員さんの話もあったし，国なんだけどそこがちゃんといかないと大変なことになるんだね。

だから徳島県みたいな田舎の県っていうのは，他の県以上にそのことを国に訴えてくれないといけないなと。後１週間以内です，多分予定は12月14日のはずなんですね。それを特にもう１回お願いしたいなと思います。

それから，さっき話があったんですが，事業承継ネットワークというのは７月にできて動いているんだけど，端的にその成果とこれからの課題を言っていただきたいと思います。

山川企業支援課長

この７月に徳島県事業承継ネットワークを構築させていただきまして，ネットワークの

中で，ほぼ皆さん実務者レベルなんですが，まず事業承継診断というフォーマットがあり，それで掘り起こしをアンケート形式で実施しました。この７月から現在まで250件の事業承継診断を実施したところでございます。

これは来年度以降は，年間500件を目標にしておりますので，非常に滑り出し好調というふうに思っています。

課題ですけど，これも新聞報道でもあったのですが，我々のこの事業承継診断で掘り起こした人たちの回答で，「支援を必要とするか」という問いに，「必要としない」という人が７割ぐらいあったんです。このような状況はあらかじめ想像はされていました。なぜかというと事業承継が必要という人にアンケートしてる訳ではないので，「そんな話まだ関係ないよ」というようなニュアンスの回答が出てきてるということです。実際に関係ないところもありますが，やはり早めの対応が重要であるので今後はそういう人たちに，この「気づき」というのと「幅を広げる」というのと，少し進化した形で提案できるというようなツールとして，我々のいろんな支援，スキーム，そういったことが提案できればいいと考えています。

岡本委員

たまたま，私の代表質問の日にでっかく載ってました，徳島新聞でね。これ以上言いませんけど，あれはでっかすぎた。だからあの新聞の主旨で，しっかりとやらないとみんなこれ心配しているのでまずいかなと思って，それは決意を持ってしてください。

では県としてどんなことができるのと，小さいことも聞かないかんじゃないですか。あえて本会議で言ったのは，小口資金っていうのがあって，今限度額が1,250万円だったね，利率が1.7％だったと思うんだけど，それを大幅にしてくれると答弁もらったんやけど，1,250万円から大幅っていうのは1,500万円ではないんよ。2,000万円ぐらいと思ってるんやけど，これ言いにくかったら言わんでいいけど，やっぱり少なくとも1,250万円の大幅っていうのは2,000万円という数字にならんといかんなと思っとんで，これ何か言うてくれますか，お答えできるところで。

山川企業支援課長

ただいま，小口資金について御質問を頂いたところでございます。この度の報告資料の来年度基本方針の中でも，左の４，安定した企業活動の基盤を強化の中に中小企業者への金融支援拡充ということで一つ柱を出していただいています。その柱の中でもやはり一番大きく，是非とも実現させたいのが小口資金の拡充ということでございます。現在この小口資金は新規融資でいうと，毎年400件を超える事業者が使っていただいておりまして，融資総額も新規約10億円の規模となっておりますので，融資限度額1,250万円よりニーズが高いということなので，拡大実現を目指して頑張っていきたいと思っております。

岡本委員

まだこれ言いにくいね，多分そうなると思うんですが，今聞いていたのは徳島県中小企業向けの融資制度の案内っていうのが，多分議員のとこにみんな行ってるんやけど，この中に今のは小口資金で1,250万円なんですが，こんなんあるんでよ，事業引継ぎ支援資

金，事業承継に取り組む方に8,000万円を限度として2.15％，今年に出とんやけど，これって今までのところ利用はあるんですか。

山川企業支援課長

事業承継が全国的に，また本県にとっても促進していくのが非常に大事なことということで，今年度，事業引継ぎ支援資金というのを創設いたしました。こちらについてはどちらかというと大口案件で，限度額8,000万円ということで大型のＭ＆Ａというところを想定してつくったところでございます。現在のところ利用はございませんけれども小規模事業者さんから見たときに，小口資金を使うか，あるいは事業引継ぎ支援資金を使うか，あるいは，新事業チャレンジ資金でありますとか，経営革新に使える資金などがございます。その都度の対象融資期間とか，利率等様々な条件もありますが，事業引継ぎ支援資金のニーズは，掘り起こしを始めたばっかりのところなので，今後必ず生まれてくると思っております。今年度，事業引継ぎの際の金融支援が非常に大事だということでこの事業引継ぎ支援資金をつくりましたし，小口資金についても融資率を1.9％から1.7％に下げるなど，先んじて融資制度を創設しているところなんで，そのあたりを御了承いただけたらと思います。

岡本委員

小口資金はね，今年から確かにそうなんよ。今言った8,000万円って余り皆さん知らんでしょう，それで今のところ利用されてない訳よ。良いことなんよこれね，ちょっと2.15％は僕は高いと思うけど，要するに利用されてないっていうのはＰＲができてないのが事実なんですが，やっぱり何か理由があるんだよなあ。当然，次年度もこの平成30年度に向けた基本方針っていう中に書かれているんでいくんだろうけど，とにかく掲げてる以上は利用してもらわんと意味ないんで，そこ頑張ってくださいね。それで小口資金っていうのは1,250万円を大幅にしてくれるん。これいっぱいあるのでなかなか勉強できんのやけど，この全ての中で，1,250万円は別ですよ，来年どっか何か変わるんでしょうか，もっと踏み込んでいくのがあったら，次の議会では遅いんで言っておいてください。

山川企業支援課長

岡本委員からパンフレットを御紹介いただきましたけど，こちら実は県の制度融資でございまして，県内の中小企業さんのニーズに的確に応えられるよう，様々なメニューを用意しているところでございます。今年度，先ほど少し小規模事業者のためのということで御紹介させていただきました。

平成30年度におきましては，よりこの県内企業の皆さまの安定した企業活動の基盤強化を図りまして，また，その事業の飛躍発展に向け，それがその潜在力を十分発揮できますよう，先ほどの小口資金とか，それからあと創業とか起業とか，そういった支援についてもより拡充できたらという方針ではおります。

岡本委員

小口資金と何と言ったの。

山川企業支援課長
　創業者無担保資金というのがございまして，そちらのほうも拡充の方向で頑張っていきたいと思っております。

岡本委員
　創業者無担保資金っていうのは，1,000万円のやつね。これは答えにくいなあ。要するにこれはもうちょっと良くなるということで理解したらええんかな。

山川企業支援課長
　なぜこの創業者無担保資金が拡充という方向にあるかというのは，小規模事業者の事業承継と，創業というのがセットになるケースっていうのがよくあり，創業者がゼロから始めるんではなくって，承継財産とか承継資源を使って，円滑に創業，起業ができるっていうことで事業所別に絡めていけるんじゃないかという方向性で，この創業無担保資金の拡充をやっていくべきじゃないかということでございます。

岡本委員
　よく分かりました。無担保なんですよ，これ1,000万円で。やっぱりこれって意外とＰＲされてないっていうか，農業だったらいろいろ法的にこうあるんだけど。
　もう一つ，あえて委員会やから言うんやけど，これはっきり分かりにくいのが，これで県はほんまにどんな支援しているのという話になるんよ。この予算４億円やな，いっぱい書いているけど県はどんな，分かりやすく言うと利子補給とかをどんなふうにしているのっていう話になるんやけど。ちょっとそのへん分からんのやけど。

山川企業支援課長
　この県の制度融資におきまして県がどういうふうに絡んでいくかというか，支援するかというようなことですけど，まず金融機関のほうにお金を預託しております。それを原資に使っていただいて，もちろん金融機関が更にプラスをして，原資の補塡というか，そのお金でまずは一つ支援する。また，保証料が生じますが，その保証料に対して一定部分を私どもで見ていくことです。

岡本委員
　これ，なんぼいるの。

山川企業支援課長
　その融資制度につきましては，金融機関への預託の予算が約200億円，累積しているものに対してやっているんですけど保証料の補塡に大体４億円を毎年しています。

岡本委員
　何かちょっと分かりにくいよな。要するにその保証料の部分を４億円ぐらい補塡してる

という理解でいいんかな，県がしてることＰＲしてよ。

山川企業支援課長

県がこういうふうに絡んでいる意味合いって言いますと，例えば金融機関さんが独自の目利きをして，それから自ら利子を設定して貸し付けて，保証も自分たちでする。あるいは保証協会へ依頼をする場合もあります。そういった使い方をする場合と，県が一定部分金額を出して，それから補助も出してくれていると。事業者さんへの貸しやすい融資を促進するように作られた制度融資という形であり，促したいところです。

万が一，金融機関さんのメニューの中で落ちるようなことがあっても，我々の制度融資のたくさんあるメニューで，どれかで拾えるということを金融機関さんにアピールするということが，中小企業者さんに向けての使いやすい制度融資というふうに考えております。

岡本委員

できるだけ分かりやすく，特に議員にはこんなんがあるんよと，もっと説明されたほうがいいんじゃないかと，私自身も思ってるし，もちろん我々が聞かないのがいけないのかも分からんのやけど，そうあったらいいなと思います。何でこの質問をしたかというと，代表質問で来年度の予算をもうちょっと上げてよっていう話をして，今年度は4,860億円で前年度比100.18％，９億円増えているんですよね。今年度予算の100.28％にすると，13億円増えて，4,873億円になるんです，僕が言った質問の意味はですよ。その数字を出すのは，商工労働観光部の今言ったところぐらいができ易いんよ，どうしてもできないときは災害を増やしたらいい，そんなこと言うたらいかんけどね。けど予算っていうのはそういうシステムなんよ。だから頑張ってほしいんです。そこをそういう意味でね，絶対頑張ってほしいと思います。

それでせっかく説明いただいたんで２点だけ。平成30年度の施策の基本方針で，阿波おどり空港の書き方がね，阿波おどり空港の国際化を契機にインバウンド対策を強化ってなっとんやけど，ここをかなり強いインパクトにしないとチャーター便は飛んだけど，定期便になるのかとかなり不安と心配がいっぱいあるんよ。正にここなんよ。もうこれ以上言わないけど，ここの言葉がこれではですね，連続チャーター便は３月31日で終わるじゃない。来年度，定期便を飛ばさないといけない。ここでピシッと書いて商工労働観光部のほうで頑張っていただきたいというか，何かもし部長からコメントがあるなら言ってください。

もう一つ，その下に，徳島のもつ魅力を発信，阿波藍のブランド化って書いていただいているんよ。これは今までと大体変わってないんよ。明日する政策条例検討会議の座長になってますが，徳島県の色を藍色って明日決めて，本会議で出すことになっとんです。これは議会がやってるから。でもそちらも大体雰囲気で分かるね。これも今議会で決まるのでそういうことも考えた。まだここでは書けんのやけど，やっていただきたいと，これたまたまさっき説明受けたから，もし感想があったら部長どうぞ。

朝日商工労働観光部長

ただいま岡本委員からまず，徳島阿波おどり空港の国際化の話を頂きました。私どもも観光誘客は大変重要なことと考えておりまして，日本全体がインバウンド対策ということで，多くの外国人旅行客を迎えようとしてる中で，阿波おどり空港の国際化は，非常に重要だと考えているところでございます。今回チャーター便ということでございますけれども，その後の定期便化に県を挙げて頑張っているところでございます。インバウンド対策は，我々としても重要だと考えており，今後ともしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので，どうか，よろしくお願いをいたします。

それと阿波藍のブランド化の話でございますが，これにつきましても東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムということで，阿波藍が全国的に非常に今ブームになっているというふうに考えております。残された時間が多いわけではございません。もう３年を切ってるわけでございます。非常に長い伝統のある徳島県としての誇りとするべき部分だと思っておりますので，これをしっかりと全国に向けて発信していき，この短い時間の中でブランド化していくよう頑張っていきたいと考えております。庁内挙げて取り組んでるところでございまして，私どもの取組も一緒に頑張っていきたいと思ってますので，どうか今後ともよろしくお願いを申し上げます。

岡本委員

分かりました。徳島県の色を藍色にするってね，どんな色ってよく聞かれてます。飽くまで藍色ね。藍色はいろんなイメージが出てきます。そこも考えながら，正に商工労働観光部でしっかり伝えてほしいなと思います。

せっかく部長が立ってくれたので，もう一つだけ聞きます。

不思議なんだけど，来年の国の予算の税収は，27年ぶりにバブル期と一緒になる。考えられんのやけどな。58兆円と言われてますよね。けど，徳島ってそんなイメージありますか。要するに徳島の今の景気動向っていうのは，商工労働観光部としてはどんなふうに思っているのか。それで，これ不思議なんやけど，58兆円で30何兆円が国債やから，ちょうど何年か前の税収と国債がちょうど逆になるのが来年なんやけど，そんな感覚ないよなあ徳島県。ちなみに徳島県の，これ余り言うたらいけないけど，県税収入は，ここ数年予算を下回ってるわね，で来年上がるのではと今言っているとこやけど，これも感想をお願いします。

朝日商工労働観光部長

今，岡本委員からお話がございましたが，国全体では，世界的に景気がいいということも影響をして，あるいは円相場の関係等もございまして，景気がいい方向になっているということは言われておるところでございます。じゃあ日本全体にそれが行き渡っているかということについての実感としては，なかなかないんではないかというお話もございます。

私ども県内の動向自身は，なかなか難しい問題もございますけれども，個別の企業さんごとにおかれた状況っていうのは，違ってくるんだろうと考えているところでございます。一方で，有効求人倍率を見ますと，空前の良さというところもございまして，人手不足感もあるわけでございますけれども，企業さんのおかれた事情はそれぞれ異なっており

ますし，先ほど委員からもお話がございましたように，事業承継など大きな課題もあるところでございます。来年度に向けましては，私ども商工，労働，そして観光も含めまして，非常に大きな課題がたくさんございますので，現状をしっかりと把握をしながら，来年度取り組むべきことについて，しっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので，どうか今後ともよろしくお願いを申し上げます。

高井委員

岡本委員からの代表質問の御答弁であった，大きく徳島新聞に載っていた香港徳島便の話に少しお触れになられたけど，私はちょっとこの新聞記事をその後よく読みますと本会議答弁以上に細かく載っておりました。ちょっと気になる記事もありましたので，その件についてお聞きしたいのと，もう一つはその後の二次交通対策の強化と受入環境の整備促進の中で書いてくださってます。この件についてもちょっとお聞きしたいと思います。

香港徳島臨時就航便ということで，これ自体はすばらしいニュースで本当に大きな記事になって良かったと思いますし，頑張ってほしいと思うんですが，中身を良く聞きますとチャーター便で，その１月21日から３月22日までで18往復ということですよね。かつインバウンド，来るほう誘客のほうだけで徳島県からの出国はないということですよね。ということは，私のイメージだと18往復ですと９便分で１機の飛行機で乗れるのが新聞情報によると164人ですか。人数の見込みとどんな形で県内の観光をアピールしようと考えておられるのか。まずはその点をお聞きしたいと思います。

戸川国際課長

ただいま，高井委員から今回のチャーター便についての質問を頂きました。今回のチャーター便につきましては委員のおっしゃるとおり，香港の場合ですとインバウンドのみ。徳島県からは乗れないという状況での申請ということで，チャーター便が成立しているというところでございまして，徳島県といたしましてはこれまで香港・台湾等の旅行会社に対しまして徳島のいろんな魅力，観光地だとかおいしい食材だとか体験だとかをアピールしてまいったところでございます。

今回まだ最終調整中ということで，最終決定はどうなっていくかということはまだ分かっていません。今我々が分かっている範囲では，徳島空港インアウト，それから徳島空港インして関西国際空港アウトだとか，それから関西国際空港インして徳島空港アウトだとかそういった機材繰りによりまして四国周遊コースだとか，それから四国と山陽地方，それから関西地方とそういった組み合わせたコースなど多様なツアーコースを用意して，設定されているという状況でございます。

徳島県内で必ず１泊があるというように聞いております。現時点で分かっておるところでは，徳島市では阿波踊り会館での阿波踊り，鳴門市の渦潮，それからフルーツ狩り，それから大歩危・祖谷の散策等の観光施設が入っているところでございます。

高井委員

ということは，ここにある官民一体となったオール徳島体制での誘客営業というのは，相手方の旅行会社に対する様々な，先ほどおっしゃったような，アピールや営業というこ

とがメインですよね。かつ，お聞きすると，徳島県イン他の所アウト，他の所から入って徳島県アウトというふうな旅行計画も入っているということなので，必ずしも徳島県の中でたくさんの観光地をまわってくれる訳ではないんだなということが分かりました。私はてっきりチャーター便なので，阿波おどり空港からインしてそのまま県内，少なくとも四国圏内ぐらいをまわって，それで阿波おどり空港からアウトの便で18往復かなと単純に思っていたのですが，非常にこれは他県との間でも客の取り合いといいますか，徳島県内の観光を振興していくためにも相当頑張らなければいけないなと思います。

少なくとも県内で１泊というお話だったんですが，私はこのチャーター便というんだったら県内で２，３泊というか５，６泊されるんかなと思っていたんで，思ったより効果を心配しています。人数的に言いましても最大で164人乗りでしたら９往復で片便と考えると，多くて1,500人ぐらいの観光インバウンドになっていくのかなと感じています。そういう意味では地元の観光関係の所としっかり連携をしながら，企画をするのがこの香港のＥＧＬツアーズっていう所ですよね，そこの中にしっかりと徳島をまわってくれるルートを組み込んでいくような話を，積極的に取り組んでいかなくてはならないと思うのですが，これも今やっているところという理解でいいんでしょうか。

戸川国際課長

旅行会社に対するアピールというところでございますけれども，ＥＧＬツアーズにつきましては，これまでもこのチャーター便に限らず徳島県内を周遊するようなツアーコースを設定して日々観光客を頂いているところでございます。このチャーター便に限らずそれ以外のツアーにつきましても，ＥＧＬツアーズでは徳島をまわるツアーを数多く用意して日々送っているところでございます。私たちといたしましてはこのチャーター便だけに限らず，いろんな旅行会社に対してもそうですけれども，ＥＧＬツアーズに対しても，数多くの徳島県内をまわってくれるようなツアーも，県内の観光施設の魅力を十分ＰＲしまして，できるだけ多くの観光施設だとか，宿泊につながるようなツアーの設定を今後も引き続き呼びかけていきたいと考えております。

高井委員

さっき岡本委員もおっしゃったように，これが定期便になりずっとこれから続いていくためには，続いていく一つのこの実証実験とは言いませんけれど，まずトライアルとしてこういうふうに臨時便就航が決まったのですばらしいことだと思います。このときの結果というか，反応というかこれは大きく次のことに影響すると思いますので，しっかり本当に官民あげて，地元の人たちも巻き込んで歓待をできるように一つの運動としてもっと盛り上げていきたいなと思いますし，私たちも各地域で言っていきたいと思いますので，是非よろしくお願いをしたいと思います。

もう一つ答弁で頂いた台湾便のほうのことでございますが，台湾便は多分その細かなことは本会議では御答弁なかったように思うのですが，今分かっている段階で結構です。新聞にはもう少し細かく載っていまして，２月９日と12日に１往復飛ばすということですが，まずはこれは双方向で行くのか，この２日間だけの計画なのか今の段階で教えていただきたいと思います。

戸川国際課長
　台湾便につきまして質問いただきました。この台湾便につきましても現在最終調整中というところで最終決定ということではありませんけれども，分かっている範囲で申し上げさせてもらいますと，今回のこの台湾チャーターにつきましては，１ツアーずつが徳島発それから台湾発それぞれが往復するという内容でございます。今回につきましては１回のツアーということではございますけれども，これからも台湾旅行会社等に働きかけましてこういったチャーター便が数多く就航できるように頑張っていきたいと考えております。

高井委員
　三好市のほうでもホテルの仲居さんとか頑張って台湾との妖怪交流もずっと続いておりますし，台湾便のチャーターができるのも私も大変喜んでおります。だからこそ是非これを成功させていただきたいと思いますし，言えるかどうか分かりませんけど，今はこの台湾便はどれぐらい人数的には見込みがあるんでしょうか。

戸川国際課長
　この人数ですけれども，飛行機の機体の大きさからいきますと180名程度というように聞いております。

高井委員
　じゃあ，いっぱい来てもらえるように受入側も頑張って連携していきたいと思っております。ということで，その受入環境の次は整備と促進というとこなんですけれども，岡田委員からもＷｉ－Ｆｉのことやアプリのこともいろいろ御質問がございました。
　私も本会議でも公共交通のことを申し上げさせてもらいましたが，やっぱりかねてから言われている受け入れた後の二次交通，もちろんツアーだったらバスで行くのが多いのかも知れませんが，必ずしもそれだけではないのかなと思いますし，今度のツアーは基本的には貸切バス等がメインになってくるのでしょうか。二次交通対策の強化の点で，今取り組んでいることがあれば教えていただきたいと思います。

戸川国際課長
　今回のチャーター便につきましては旅行会社の主催ということで，団体ツアーという内容になっておりますので，最終どうなるのかというのは分かりませんけれども，大型バス等を利用したツアー内容になると思っております。

高井委員
　二次交通対策については何か答えられますか。

戸川国際課長
　二次交通対策につきまして，まずレンタカー等は，中国・四国フリーパスという制度がありまして，外国人限定ですがＥＴＣを活用しまして，それが統一料金という，そういっ

たシステムがございます。そういったところを旅行会社等にＰＲしているところでございますけれども，それを活用していただくことによりまして，数多くの個人観光旅行者におきましても，四国を訪れてもらえるような状況を作っていきたいと考えております。

高井委員
　私，これ知りませんでしたが中国・四国フリーパスのレンタカーが外国人専用であるということ。どっか民間の会社がして，それを紹介しているのか，県としても何か支援をしてらっしゃるのですか。

戸川国際課長
　これは，中国，四国地方の自治体，それからレンタカー会社，それから高速道路会社が一体となりまして，こういったシステムを構築しております。その手続につきましては各レンタカー会社のほうで行うことによりまして，統一料金券を発行いたしまして，その期間内でしたら乗り降り自由で統一料金という設定となっております。

高井委員
　だから民間の取組を宣伝しているということなんですね。県が何か財政支援してる，お金を支援しているというのではない訳ですね。

戸川国際課長
　はい。県の支援といたしましては，こういったフリーパスがあるということの周知とともに，これは旅行会社向けになりますが，レンタカー助成というのを設けておりまして，１人1,000円ですけれども旅行会社を通して，レンタカーを借りる場合に申請いただきましたら，そういった助成制度を用意しております。

高井委員
　レンタカーはとても有効だと思います。公共交通の連携が残念なことにまだまだ弱いというか，本数も少ない中でやっぱりレンタカーに対する助成は大事だと思いますし，外国人だけだというお話でしたけれども，日本人の観光客にとっても非常にメリットがあると思います。一つの観光受入環境の整備としては大きいのではないかと思いますので，またそういうことも考えて外国人だけでなく，日本人も入れてそういうことを広げていくには，規模なのか，人数的な問題なのか，何かあるのかも知れませんが，是非検討していただければというふうに思っております。
　大きなバスを借りてずっとまわるというのは，一番楽で主要な観光地をまわりやすいですし効果は大きいと思いますが，やっぱり今一人旅であったり外国人の方もグループで少数でまわられる方も多いと思うので，空港に着いてから自分が思う行きたいところへ，できるだけ手が届くような交通環境の整備というのは大事だと思います。是非これは県土整備部のほうだと思いますが，商工労働観光部も連携してお願いを申し上げたいと思います。

岩丸委員

先ほど部長のほうから御説明いただきました中で，この次年度に向けた施策の基本方針といったところで，県内企業の成長力の強化っていう点でＬＥＤとか４Ｋ，健康医療等々の成長産業の育成強化ですとか，次の成長分野の産業集積を加速っていう中でサテライトオフィスとか情報通信関連，クリエイティブ産業の集積とか，また一番右手の誘客コンテンツの充実強化。また国内外からの誘客の促進というような点から言いましても非常に合致しとるような点で，つい先般，私の地元で行われました４Ｋ国際映画祭ｉｎ神山について少し，私自身の地元のことですからＰＲを兼ねまして，お話を伺えたらと思います。

御案内も頂いたり，ちょうど私の関連してるところで，ふすまからくりの映像もあるというふうなことで見させていただいたんですが，授賞式とかレセプションの御案内も頂きまして，これ応募作品が全世界含めて百何点かあったと。その中で主な20点やいうことで，最優秀やったＣＢＣテレビって，これ中京だったと思います。伊勢神宮の命あふれる神々の森五十鈴川を行くやいう作品，こんなんも含めてパナソニック映像ですとか，関西テレビ放送，また札幌テレビとか，立教大学の現代心理学とか，テレビ朝日とか，ＴＢＳビジョンとかいうのも含めて，また海外からはイギリスとか，オランダ，フランス，スペインからも応募があったというふうなことで，主な20点がこうなっておりまして，そういう授賞式があったわけなんです。100人超えて授賞式にも参加しておって，その後レセプションあったんですが，こうぐるっと見ておりまして，朝日部長は変なとこでおったんですが，神山町の人間て確か４，５人だったと思います。そんなことで全国から来てくれとるというのは，非常に有り難いとも思いますが，このＰＲも含めてなんですけれども，まずは今回３回目だったんですかね。当初，この映画祭の開催の目的っていうのは，どういう点だったか，再度，また聞かせていただけたらと思うんですけど。

山川企業支援課長

ただいま，岩丸委員から４Ｋ国際映画祭について御質問いただきました。この映画祭，４Ｋということを切り口に始めたきっかけは，先ほどもございましたように，サテライトオフィスが神山町に集積していくと。しかもその中に，４Ｋを扱う事業者さんも集積しているということで，何か４Ｋを使って街おこし，あるいは徳島の良さの情報発信ができないかということで，平成25年度ぐらいから町を使った取組ということの検討が始まりました。

映画祭については平成27年度から始まったところでございまして，平成27年度で2,900人が集まりまして，平成28年度が3,400人，平成29年度で4,500人と年々増えておりまして，今，委員おっしゃっていただいたように県外から，要するに地元以外から来てる方はたくさんいらっしゃるというふうに思っております。

この４Ｋ国際映画祭は，もちろん公募で４Ｋ映画を集めて，神山町に行ったら，どこに行っても見えるというスタイルにしているというのと，それと４Ｋの技術者とか，放送関係者が来てくれるように，いろんな機材などを展示する部屋を設けたり，そういった専門家がセミナーをする部屋を設けたりという，４Ｋに関わる人，あるいは映像好きの人等あらゆる人が集えるようなイベントになっていると思います。

来年度の方針の中でもＬＥＤとともに４Ｋの産業育成強化ということがございまして，

2020年に東京オリンピック・パラリンピックを皆が４Ｋの放送で見るといった時代の先に徳島県が一歩先に出て４Ｋ産業として集積し，徳島県にそういう仕事が集まってくることを目指して，来年も積極的な取組をしていきたいと思っております。

岩丸委員
　そういったことで，今年のパンフレットがあるんですが，これ見させていただいておりますと，今年は特に，城西高校神山分校がメイン会場というようなことで取り組まれたみたいであります。特に今，神山町は地方創生に向けて神山つなぐ公社っていうのが活動しとんですが，城西高校神山分校の将来についてということで，非常にいろいろ検討がなされておりまして，そういったこともあって城西高校神山分校をメイン会場にしていただいたのは非常に有り難いと思うわけなんです。これの主催は徳島４Ｋフォーラム実行委員会となっとんですが，これはどういった組織がこうなって，この実行委員会が構成されとんでしょうか。

山川企業支援課長
　４Ｋ実行委員会につきまして，委員長自体は知事ではございますが，そのほかは皆さん民間の，例えば放送会社でありますとか，ケーブル会社でありますとか，進出していただいているサテライトオフィスの会社でありますとか，そういった形でより現在のこの４Ｋの状況でありますとか，今の町の状況とか，そういったことが反映できるような形で組んでおります。さらに，その年その年，今年であれば，じゃあ学校をテーマにまず，ノスタルジーと最新の技術を組み合わせた形で集客をしようというふうなアイデアが，ちゃんと出るような実行委員会組織となっております。

岩丸委員
　知事が委員長というふうなことですが，県の立ち位置というか，例えば，これの開催のためのいろんな費用は高かったと思うんやけど，県からどの程度それが出ているのかとか，そこらへんが分かりましたら。

山川企業支援課長
　予算的なことで言いますと，４Ｋ事業全体では今年度は5,400万円ほどつけていただいておりまして，その中で国際映画際でありますとか，４Ｋの阿波踊りのライブ中継でありますとか，それから４Ｋのアーカイブで作っていって県民の人に使っていただくように，そういうストックも作っていったり，そういう形で事業をさせていただいておりまして，その費用を県のほうからも実行委員会に出させていただいておるということです。

岩丸委員
　5,400万円を県が出しとるということですか。

山川企業支援課長
　４Ｋ事業全体の予算額は5,400万円，ほぼそうです。一部執行残もあるかも分からない

ですが，大体その程度です。

岩丸委員
　いずれにしても神山町に２日間で4,500人っていったら大したもんだと思います。先ほども言いましたようにレセプションでもほとんど知らない人間というか，それもＮＨＫエンタープライズなどの，全国からそういうふうな映像の，いわゆる専門家っていうか，いろんな放送局からも来とるし，非常に有り難いと思うわけなんです。もうちょっと神山の町中を歩いて，町内のいろんな団体が屋台みたいなもんを出しとんですけども，そういった雰囲気も楽しんでもらいたいし，もっともっと，先ほど岡田委員もおっしゃったんですが，ＰＲも是非やっていただきたい。私らもできるだけいろんな会合に行っては，それを言っているんですけども，そらおもしろそうなと言う中で，なかなかピンときてもらえないところもあるんで，是非，今後ともお願いしたいとも思うとこでございまして，せっかくのことなんで少し取上げさせていただきました。来年も，時期は11月の末ぐらいになるんですかね。来年も執行する予定なんでしょうね，どうなんですか。来年ないや言われたら困る。

山川企業支援課長
　来年度の基本方針にも明確に「４Ｋの産業育成強化」ということを書かせていただいておりまして，そこにつながっていくためには，今やこの４Ｋ映画祭というのは一つの核になっていると思っております。しかも同じ時期にすることによって，毎年あの時期に行けば４Ｋ映画祭があるというふうに継承すればいいというふうに思っておりますので，来年もできますよう努力してまいりたいと思っとります。

岩丸委員
　是非お願いします。是非，皆さんも見に来てください。よろしくお願いします。
　そういったことで，特に入り込み人口というか，交流人口が，神山町の場合は年間100万人を超えたとかは言っているんですけれども，是非そんなことを含めて海外からの出展もあるとのことで，外国の方にも来ていただきたいというふうにも思います。そういった面のＰＲ，また今後ともよろしくお願いして終わりたいと思います。

長池委員
　予定してなかったんですが，このデジタルアートの資料をずうっと見ていたら，何か言わないといけないような気がしてきて。基本的に私はやることに反対ではないんですが，高いお金使ってやるからには効果上げないかんという姿勢と，もう一つはチームラボがそんなに好きでないんで，それだけのことでございまして。それでこの名称のところに，チームラボ川と森の光のアート祭っていうんは，後から副題がついたんですかね，どういった経緯だったのか教えていただけたらと思います。

黄田観光政策課長
　とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの関係でございます。委員からお話が

ありましたように，名称につきましては資料にもございますように，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルのサブタイトルとして，今回，「チームラボ　川と森の光のアート祭」という形で実行委員会にお諮りしまして，サブタイトルを入れさせていただいたところでございます。これにつきましては今回，シンボルアート作品につきまして，チームラボの提案で４作品をそれぞれのエリアで展示するもので，集客を図るためにも対外的にチームラボのサブタイトルをつけまして，より広くＰＲして誘客につなげていきたいと実行委員会のほうでも決定したところでございます。

長池委員

そうなんですよ，集客を図るためには，やっぱりチームラボってつけたほうが多分，今はいいんです。聞いている間にスマートフォンでちらっと調べたら，この年末年始，全国各地でチームラボなんじゃらっていうんがいっぱい開催されてます。日本だけじゃなくて中国のほうでも開催されてます。全て，チームラボ光と何とかっていうんがありましてね，そりゃあもうすぐ，今も神戸まで走れば何かやってます。集客のためにはこうつけたほうがいいんだろうなぁと思うんですが，うがった見方をすると，最初からこれの予定であって，値段もこれに合わせて予算つけてみたいなだったんちがうかな，そんな感想を持ってるだけでございます。ただ，これはもうチームラボが廃れてきたらどうするんだろうという感じがしまして，そもそもチームラボの力で徳島にお客さんとか呼ぼうとしておったのか，それともやっぱりＬＥＤフェスティバルというのを，徳島県のＬＥＤを売り込むためから発想が出てきておったんであれば，これはどんな形であれ今後もある程度続けていくんだという方針であれば，そのチームラボに乗っかってる状態で１年２年やっちゃう，今後どういう展開していくのかは結構危ういんで，これこそチームラボが何かの拍子でこける可能性もありますから。今の世の中どんなことが起こるか分かりませんので，どういう方針で今のところ考えられているのかと，ちょっと思っているわけです。

先ほど４Ｋの話，来年も是非っていう話もありましたが，私もＬＥＤフェスティバル自体は，徳島県の一つの産業のＰＲにもなりますし，冬の集客としては盛り上がるほど良いことだと思っておるんですが，今はもうチームラボに乗っかってるような，何かチームラボのイベント，下手したらチームラボのＰＲみたいになってるのが私は気に入らんというだけの話でありまして，それに対して，何かお考えがあるのかをどなたか答えていただきたいと思います。

黄田観光政策課長

今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにつきましては，これまで県が取り組んでまいりましたＬＥＤバレイ構想の推進やアートによる地域づくりという形で，県下全域をフィールドにした創作活動というデジタルアートミュージアム構想というのもございます。そういう中の一つといたしまして，やはりＬＥＤといえば徳島ということを対外的にＰＲしていく中で，このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを開催するという形で行っているところでございます。シンボルアート作品につきましては広く公募いたしまして，審査委員会でチームラボの作品を決定したというところでございますので，あくまでも，このフェスティバルにつきましては，このＬＥＤバレイ構想に基づく

ものの中でＬＥＤを生かした街づくりといいますか，対外的に誘客につながるようなイベントを行っていくという形でスタートしたものでございます。

長池委員

チームラボが今ノリに乗ってますんで，いいんじゃないかと思います。公募だろうが何だろうが，私はチームラボで良かったんじゃないかと思います。ただ，そういったＬＥＤバレイ構想という，しっかりとした構想のある中でＬＥＤといえば徳島県というふうに発信していきたいんであればね，やっぱりメインのチームラボはいいんですが，街中がやっぱりこの期間だけは，ＬＥＤのそういった思いを表現できるような期間にしていただきたい。徳島の阿波踊りと一緒ですよ。高円寺よりも徳島の阿波踊りのすばらしいのは，その期間は，徳島県内が阿波踊りの気持ちになるんですよね。参加してもしなくても阿波踊りやなっていう感じになりますんでね。

ですから，やっぱり年末年始とか，よく個人の家とか企業さんも，何かイルミネーションしたりするじゃないですか，自費でね。あれを，この期間も残してくれぐらいの呼びかけしてね，何か徳島に来たら普通の家もまだイルミネーションしてるぞぐらいの雰囲気に持っていかないと，こんな川沿いとかだけ，何か１億円もするようなＬＥＤ，しかもリースやいうものを置いてお客さん来てくださいったって，県民のほうが無視しますよ。やっぱり，もう徳島駅降りようが，徳島空港降りようが，どこ来ようが，何か年末のイルミネーションまだやっているんかぐらいの，ほんまにバスもタクシーも，皆イルミネーションついてるぐらいの勢いにしないと，こんなもんチームラボに頼ってるようなイベントして，脱税でもあったらすぐこけますよ。私はそれが言いたい。

ほんまに県民からは，そんな目で見られてるんですよ。そのイベントも同じやと見られてるわけやから，そこを何とかクリアせないかんと思います。ほんまに徳島県，無駄銭１円も使う余裕はないと思いますんで，これを機に，是非これを成功させていただきたいという思いでございますんで，何か言ってもらったら，もう終わります。

福田商工労働観光部次長

長池委員からデジタルアートフェスティバルについて御意見を頂きました。この事業につきましては，様々な御意見を頂戴したわけでございます。我々，来年の２月に行うフェスティバルについては，メインの作品をチームラボという形で４会場でやって，ワークショップもやりながら県民参加も促していくというようなやり方で，やらせていただこうというふうに考えております。

ただ，ＬＥＤを活用したＬＥＤバレイ構想，本県推進しておりますので，これを対外的にＰＲする手法として，フェスティバルが始まったというような経緯を考えれば，今後ともＬＥＤのＰＲというように何らかの方法はいるのかなと考えております。今後の進め方といたしましては，皆さん方の御意見を頂戴しながら，しっかりと進めていきたいというふうに考えております。

岩佐委員長

いろいろ思ってたことを長池委員に言っていただいて，このとくしまＬＥＤ・デジタル

アートフェスティバルに関してなんですけども，今回これに関しては最後の委員会ということになります。６月定例会に予算が出たときに何も判断できる材料がないという中で，その後，こういうふうな形で随時，経過報告っていうのを頂いております。こういう内容が決まってない状態で予算だけでという形は，やっぱり審議ができないということもありますので，今後，こういうようなことがないように，しっかりと予算の審議ができるような資料の提供を，まず，お願いしたいというふうに思ってます。

本当に，今ちょっと考えてたのが長池委員の質問の中で出てきた，それこそＬＥＤバレイ構想のことを言わないかんかなとは思ってたんですけども，今回，委員会でこういう内容になっていきますよというような報告があって，各委員さんからも，いろんな人を集客するに当たって，どのようにしていくのかという質問もあったかと思うんです。今回，かなり内容として煮詰まってきてるんですけども，本当に形に残るものっていうのは，やっぱり後々必要になるのかと。イベントで終わりっていうんじゃなく，形として残していかなきゃいけない。この中で一つ思ったのは７番の関連イベントで，ＬＥＤ総合フォーラムっていうのは開催すると。この中でも先ほどあったＬＥＤバレイ構想であったりとか，そこで徳島大学とのいろいろ連携している新しい商品であったりとか，そのＬＥＤの将来的な展望っていうのも，多分この中で話をされるのかと思ってるんですけども，やはり地元の企業さんが伸びていく，イベントの一つっていうんですかね，この取組を発表できる場っていうのも必要だとは思うんですけども，少しだけこのフォーラムに関して，内容を教えていただけたらと思います。

中西新未来産業課長

ただいま，ＬＥＤ総合フォーラムにつきましてお尋ねを頂いております。委員長からもお話がございましたとおり，ＬＥＤバレイ構想は平成17年に策定いたしまして，ＬＥＤ関連産業集積による産業の振興を通じた本県経済の活性化というふうに取り組んでまいったところでございます。その後，関連産業100社集積という目標を掲げておりますけれども，これは今現在140社まで集積が拡大し，取組を進めておるところでございます。

また，平成27年度にはワールドステージというような形で，新たな海外に向けての展開を図っていくというようなこともやっておるところでございますが，このフォーラムにつきましては，こういったＬＥＤに関する様々な知見を広く情報発信いたしましたり，ＬＥＤ分野の更なる発展，またＬＥＤ利用県徳島の実現を目指すということで，このデジタルアートフェスティバルとの関連行事という形で開催させていただくということでございます。

岩佐委員長

やはり関連行事ということなんですけど，やはり先ほど話もあったＬＥＤバレイ構想を掲げて関連企業100社というようなことなんですかね。しっかりとイベントっていうんですかね，やはり地元にお金を落としてもらうこともそうですし，地元の企業が成長していくということをしっかりと考えて，今後もこのような取組を進めていただきたいと思っております。先ほどの長池委員の話で次長からも御答弁の内容にはなると思うんですけれども，これからそのような取組をお願いしたいと思います。

それともう１点，これも最後要望のような形にはなるんですけれども，基本方針等にも関係してくるんですけれども，これも岡田委員からもまた話もあったんですけれども，いろんなＰＲをしている。観光にしても徳島県の魅力をＰＲするというのは本当に言えることだと思います。例えばいろんなアプリを使ったりサイトを使ったり，それは本当に様々なところから情報発信はしてると思うんですけれども，じゃ実際にそれがどれだけ伝わっているのかとか，またどれだけ検索をされているのかっていうのをつかんでいるのか。こちらは発信をして終わりっていうんじゃなくて，やはりそれが検索をされて見られて実際に徳島県に行ってみようかとか，徳島県の物を何か買ってみようかっていう形でフィードバックがなければ，単なる発信で終わってしまっては意味がないもんだと思います。その辺，例えば徳島県に関していろんな検索サイトであったりとか，じゃあ徳島県や徳島県に関する言葉であったりとか，そういうものに対してどれぐらい検索されているかっていうのは，つかんでいるのでしょうか。

黄田観光政策課長

県の観光情報サイト阿波ナビにつきまして，トップページのアクセスの件数というのは，それぞれ年度で集計をしているところでございます。ただ，検索のところまでは今ちょっと手元にはないので申し訳ございません。

岩佐委員長

アクセス数で判断できるところもあるんですけれども，やはり全国的に見たら，まずそこの阿波ナビに行くまでっていうのもやはりどれだけの方が，そこに来てくれたらそれは県内のことは見られると思うんですけども，全国的にみたらその阿波ナビ自体，阿波とかいう言葉自体どれだけの方が検索して興味を持たれているのかなというところが一番重要なところだと思います。

この「＃徳島あるでないで」キャンペーンとかもそうなんですけれども，こういう言葉も本当にあるでないでという言葉，本当に面白いとは思うんですけれども，やっぱり情報発信の仕方というのはいろんなコンテンツがあると思います。ハッシュタグとかいうのも僕は余りよく分かってはないんですけども，今このハッシュタグを使って言葉を入れたらいろんな方が検索をして，そこにつながっていくっていうのもあるんですけれども，その情報発信の仕方っていうのもしっかりいわゆるタスクフォースを組むなりして，またそれをどれだけの方に見てもらっているか，検索をしてくれているかっていうことをしっかりと捉えて魅力を発信していくことが重要だと思います。それも踏まえて平成30年度の，この基本方針の中のそういう魅力発信ということにつなげていただきたいと思うんですけれども，最後何かあれば。

福田商工労働観光部次長

委員長から情報発信の在り方について，いろいろ御意見を頂きました。求める人に求める情報を的確に届けていくというようなことが，どういうふうにすればいいのかということについては，常々研究して今後もしていかないけないというふうに考えております。今回「＃徳島あるでないで」キャンペーンでハッシュタグを付けるというような取組も，若

手から出てきたということもございます。今の情報通信社会が発展しておりますのでビッグデータの活用でありますとか，どういうところを検索しているのかっていうのが分かるよう，そういうことも含めて効果的な情報発信はどうあるべきなのかというのを，庁内挙げて取り組んでいきたいというふうに考えております。

岩佐委員長
　ほかに質疑はございませんか。
　（「なし」と言う者あり）
　それでは，これをもって質疑を終わります。
　それでは，これより採決に入ります。
　お諮りいたします。
　ただいま審査いたしました商工労働観光部関係の付託議案は，原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。
　（「異議なし」と言う者あり）
　御異議なしと認めます。
　よって，商工労働観光部関係の付託議案は，原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】
　原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）
　　議案第１号，議案第17号，議案第18号，議案第19号

　以上で，商工労働観光部関係の審査を終わります。
　これをもって，本日の経済委員会を閉会いたします。（12時28分）